

第1回岩出市の環境をまもる審議会

1. 日時：令和7年7月30日（水） 13時30分～14時30分
2. 場所：岩出市役所 2階 特別会議室
3. 出席者：会長他委員13名、事務局5名
4. 議題：20リットル未満の岩出市有料指定可燃ごみ袋の作成について
5. 会議形式：公開
6. 傍聴者：なし
7. 議事概要：司会者 開会
会長 挨拶
(1) 岩出市のごみ袋に関する現状と、他市の状況
(2) 20リットル未満のごみ袋の作成に対する意見
(3) アンケートの実施について
(説明終了)

主な質疑応答

事務局

岩出市の人口についてですが、令和4年をピークに人口減少となっています。令和4年54,116人いた人口が令和7年6月末現在で53,648人と減少傾向となっております。ただし世帯数に関しては、今なお増加傾向となっております。令和4年には24,371世帯でありましたが、令和7年6月末時点で25,018世帯となっております。これは、一世帯当たりの人数が減ってきているということです。今、特に問題となっているのは、単身者世帯の数が、現在94,057世帯となっており、岩出市の世帯数の38パーセントを占めています。それだけ単身者世帯が増えていることが岩出市の現状となります。

続きまして、近隣のごみ袋の状況についてですが、岩出市では可燃ごみ袋は45リットル、30リットル、20リットルの3パターンで運用しています。和歌山県内では有田市、海南市、和歌山市、田辺市、新宮市が15リットルのごみ袋を設定しています。新宮市は特小袋で8リットルを設定している。また、他に大阪府内になるが、泉南市、阪南市は、特小袋として10リットルの袋を設定している。さらに和泉市は10リットルよりさらに小さい5リットルを設定している。

やはり岩出市でも、単身者世帯が増えており、20リットル袋では一週間で2回ある内の1回で捨てる際に満杯にならず捨てれないというご意見をいただいているのが現状です。それらのことを踏まえて、20リットル未満を作成する必要があるのか、作成するなら10リットルまたは15リットルにするのか、その袋の処理手数料に設定についてもどのようにするのが良いかをご意見いただければと思います。

質疑

自分たちの生活に置き換えても、週2回の収集日では20リットルがいっぱいにならないことから、単身者世帯の増加に伴う20リットル以下のごみ袋を作成することはおおむね賛成です。

処理手数料は現在1リットルいくらなのか。また現在ごみ袋の作成は、どれくらいの頻度で行っており、作成はどこ製なのか。他市のものと素材が違うようだが、何の素材ですか。

事務局

条例上は、処理手数料1リットル1.1円です。ごみ袋の作成は、ほぼ1年に1回となります。生産は、現在は海外製となります。素材は、岩出市のごみ袋は高密度ポリエチレン製です。他市の違う素材のものは、バイオプラスチックです。ごみ袋を作成する場合は、他のサイズと同様高密度ポリエチレン製となる予定です。

質疑

コスト面も考えなければならない。岩出市のごみ袋は、他市の指定ごみ袋よりしっかりしているが、厚さは何mmなのか。手持ちの部分とマチ有りの特小袋となるとさらにコストがかかるのではないかな。

事務局

0.035mmを超える厚さで作成している。コスト面に関しては、分かりかねるがそれなりにかかるのではないかと考えている。

委員

私も商売をやっているが、特小袋のサイズは大きいものと違い他のレジ袋の型が使えるので、そこまで大きくコストがかかるわけではないと思う。

質疑

特小袋を作成することで、市として現在の保管場所のスペースがいっぱいであると思うが、置き場所はどうか。

事務局

確かに置き場所の確保は難しい。ですが、特小袋を作成した場合は、20リットルの需要が減少することが考えられるので、その置き場所を利用できるのではないかと考えている。

質疑

仮に特小袋を10リットルとした場合、毎年行っている無料交付はどれくらいもらえるのか。また、住民サービスとしては良いかもしれないが、当初は5年で終了という案も出ていたはずだが、無料交付はこのまま続けていくのか。ごみ袋以外の経費も相当かかっているのではないかな。住民サービスとしてはいいが、費用対効果というか、すごい経費かけて続けていくということが必要があるのか。

事務局

無料交付については、1人世帯であれば単純計算で約60枚の交付となる。事務局としては、可燃ごみの有料化は、ごみの減量化を進めるために導入されたというのが経緯となります。この可燃ごみの推移は、令和元年が、ピークとなっており年間で1万3104トン。そこから右肩下がりになってまして、令和6年度では1万2113トンまで減少しました。この結果は、減量化を取り入れた効果だと考える。確かに経費は掛かっているが、無料交付を行っても、ごみの減量化が図れて

るので、現在のところは終了せずとも問題ないと考えている。

質疑

私は、週2回のごみの回収に、スーパーの袋にそれぞれのごみをまとめて20リットルの袋に入れて出している。それでもいっぱいにならないので特小袋は良いと思うが、人によっては、ごみがたまったら収集日でもないのに集積所に出す人が増えるのではないか。そうなってくると、集積所を管理している地域住民が困る。分譲地などはコンクリート囲みの集積所になっているので、カラスや猫などの被害が増えて管理するものも大変になるのではないかと思う。また、収集する人は素早く積み込んで持って行ってくれるが、特小袋だと個数が増えたりして手間が増えるのではないか。

事務局

可能性はある。クリーンセンターとも協議を重ねる。

質疑

特小袋を作成するのであれば、他市のサンプルにあるような多言語の注意書きを増やしたり、そうへいちゃんのイラストを入れる等の話を詰めていかなければならない。他市では、小さいゴミ袋をスーパーのレジ袋として販売し活用している地域もあると聞いている。それを検討するには、まず本当に市民が必要としているかという事です。事務局として、今回の議題に対して、何かデータを持っているのか。

事務局

具体的なデータは持っていない。ただし、課に対するお問い合わせ内容に関して、20リットル未満のゴミ袋はないのかという問い合わせは少なくないと感じている。それに伴い、本審議会で皆様の意見をお伺いし、審議を重ねていきたい。判断の材料として市民に対してアンケートを取ることとも可能だが、それについても審議会でご検討いただきたい。事務局としては、20リットルの利用者が多いであろう1人世帯・2人世帯で無作為に選んだ1,000人から2,000人くらいの間で市民アンケートを取るのはいかがでしょうかと考えている。

委員

確かに、岩出市民の利用者の声を知りたい。事務局の案の通り、1人世帯・2人世帯へのアンケートを行い、1,000人くらいのアンケートを行ってはどうか。民意としてアンケート結果をみたうえで、再度審議した方がいいと思う。アンケートはどれくらいでできるのか。

事務局

アンケートを行う場合、内容は本審議会の内容をふまえて事務局が案を作成し、議長に確認いただく。対象者は、1人世帯500名、2人世帯500名で計1,000名を無作為で抽出して行うということでよろしいか。アンケートの回答期間は1か月程とし、8月半ばから9月半ばで締め切って集計を行う。結果がまとまり次第、9月中に第2回の審議会を開催したい。

委員

異議なし。

まとめ

- (1) 単身者世帯が増えているため、作成には理解できる。
- (2) 一部の声のみで、データが無いため市民の意見を聞きたい。

一部の要望と審議会だけの意見で決めるのではなく、市民アンケートをもって意見を募りたい。
そのうえで、コスト面や作成するにしても多言語対応の注意文の挿入などを考えていきたい。

次回審議事項

- ・市民アンケートに基づいたごみ袋作成について
- ・処理手数料について

8. 次回日程 令和7年9月下旬で検討中